

|     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 町 長 | 副町長 | 院 長 | 副院長 | 事務長 | 次 長 | 担 当 | 合 議 |
|     |     |     |     |     |     |     |     |

別記様式第 4 号

| 会 議 等 結 果 報 告 書 |   |      |                  |
|-----------------|---|------|------------------|
| 会議区分            | 会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議   | 文書番号 | 113              |
|                 |   | 決裁期日 | 平成 26 年 5 月 23 日 |
| 名 称             | 平成 26 年度 第 1 回 上富良野町立病院運営審議会  |      |                  |
| 日 時             | 平成 26 年 5 月 22 日 (木) 18 時 00 分から 19 時 05 分  |      |                  |
| 場 所             | 役場 2 階審議室   |      |                  |
| 出席者             | 町長、北川委員長、鎌田副委員、岡和田委員、三好委員、事務長、次長、狩野主査、末永主査  |      |                  |
| 内 容             | <p>町長、北川委員長挨拶の後、次のとおり審議した。</p> <p>1 平成 25 年度病院事業会計決算状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別紙資料により説明、概要は次のとおり。</li> </ul> <p>①決算概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25 年度の決算は、事業収益 814,589 千円、事業費用 835,409 千円、特別損失 60 千円で費用合計は 835,469 千円となり当期純損失は、20,880 千円となった。</li> </ul> <p>(病院事業費用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医業収益は 544,814 千円、前年対比で△9,031 千円の減少。</li> <li>・老人保健施設事業収益は 133,123 千円の△3,955 千円の減少。</li> <li>・医業外収益 136,652 千円の△2,060 千円の減少。</li> </ul> <p>入院・外来収益の医業収入、老人保健施設事業収入ともに減収となった。</p> <p>(病院事業費用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医業費用 823,662 千円、前年比 24,382 千円の増加。</li> <li>・医業外費用 11,747 千円、前年比△2,550 千円の減少。</li> <li>・特別損失 60 千円</li> </ul> <p>費用の増加は、旭川医大からの出張医の派遣回数が増え診療体制の充実が図られたことが主な要因となった。</p> <p>②未収金と不納欠損について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 18 年度からの未収金合計 189,922 円(32 人)のうち平成 20・21・22 年度の 60,213 円(5 人)の債権については、民法の規定により 3 年の時効期間が経過していることから 25 年度に不納欠損処分を行い、特別損失に計上した。</li> </ul> <p>③患者動向について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入院外来棟の患者動向と</li> <li>・入院・入所者数は、一般病床 9,420 人、介護療養型老人保健施設 9,099 人と</li> </ul> |      |                  |

なり、合計 18,519 人で、前年対比 250 人の減となった。前年比は、98.7%で 21 年度比では 84.2% となり 5 年間で約 15%の減少となっている。

- ・外来患者数は、27,657 人、前年対比で 2,899 人の減となり、入院・入所者数と外来患者数を合わせた患者数・利用者数の合計は 46,176 人で、前年対比 3,149 人の減となった。外来患者の前年比は、90.5%で 21 年度比では 79.2%となり 5 年間で約 20%の減少となっている。

- ・外来患者のうち内科患者数は、20,859 人、前年比△2,155 人で約 10%減少、21 年度比では△5,708 人で約 20%減少。外科患者数は、4,211 人、前年比△646 人で約 13%減少、21 年度比では△1,693 人で約 29%減少となっている。

#### ○院長内科外来予約診療による患者動向

平成 25 年 7 月から予約診療を開始した。実施後は、受付から診察終了まで 1 時間以内の者が 9 割(うち 30 分以内 6 割)となり、患者の待ち時間が短縮され患者負担の軽減が図られた。また、平成 25 年 4 月に投薬期間を最長 28 日から 90 日へ延長したことと予約診療による受診患者数の適正化を図ったことにより平成 26 年 1 月から 3 月で△668 人、一日当たり平均 11.5 人の減少となった。今後も減少傾向が続くものと推測する

以上の決算の概要を説明した。

質疑については、次のとおり

委員：旭川医大の派遣が増えているが、医大に負担はかかっているのか。

事務局：3 年目の医師が 4 人入局したので派遣に余裕ができた。

委員：不納欠損処分はこれからもやっていかなければならないのか。

事務局：3 年の時効をむかえたものは処分の対象となる。

委員：(患者数の減少は)患者が健康になったのか。別の大きい病院に行くのか。

事務局：患者数自体は減少していない。

委員：90 日投薬は大きな取組だったのでは。

事務局：国の方針で病院受診を抑制するために行っている。

委員：投薬期間を見直すことはできないのか。

事務局：医師が判断するものである。

委員：大きな医療機械購入はあるのか。

事務局：大きな額のものはない。

町長：人件費が増えるのは、病院体制維持のためには必要で赤字の要因となっている。

委員：町立病院の取組み、JA 女性部などで話す知らない人が多い。外観で判断する人が多い。環境が悪い。いい器械、いい先生が来ているのに残念だ。PR に努めなければならない。

委員：救急の件数は外来に入っているのか。

事務局：外来件数に入っているが、他の病院への搬送が多く診療報酬の増には繋がっていない。